

学校関係者評価

令和6年3月1日

船橋市立葛飾中学校

本年度、本校の部会は、学習指導部、研究研修部、道徳指導部、特別活動指導部、生徒指導部、GIGA SCHOOL研究部、管理部および教務事務部を設置した。

それぞれ学校評価結果をもとに振り返りを行い、次年度に向けた具体案について検討した。

また、学校運営協議会委員の意見や感想を参考に、次年度につなげ「よりよい学校」を目指したい。

1. 各部会より

【学習指導部】

(1) 学習予定表

- ・2か月ごとに発行しホームページにも掲載しており、担任が、他教科の提出物や単元テストを把握できた。一方で、一般の生徒の関心度があまり高いとは言えない。来年度は、「学習のポイント」や提出物、単元テスト（小テスト）をシンプルな表記となるよう努める。

(2) 総合テスト・(単元テスト)

- ・テスト初日の2日前までに問題用紙と解答用紙を教務（1部）に提出。なお、外部機関（適応指導教室ひまわり、青少年センター、児童相談所など）で受験する生徒がいる場合、生徒指導主事にも提出。
- ・各教科の授業で解説の時間を設定した。欠席生徒のテストが終了しないと実施できないため間隔があいてしまうが、来年度も実施し、生徒の理解が深まるよう努める。

(3) テスト前学習会

- ・学年ごとに実施した。教科によって質問の偏りがあるが、普段、部活等で質問の時間がなかなか取れないため、有効であった。

(4) 夏季休業中の補習

- ・学年ごとにそれぞれ別日程で2日間実施した。葛の葉サポーターの協力を得ることができ、有効であった。来年度も学習内容は数学、英語の基礎（苦手な生徒を対象）とし、教員が準備する。できるだけプリント内容を葛の葉サポーターに事前に知らせる。ただ、教員が研修や出張、部活動大会などで立ち会うのが難しい状況があった。立ち会う教員は、生徒の健康把握や施錠の確認などとし、教科外でも担当できるようにする。

(5) 欠席者のオンライン授業

- ・教室に入れない生徒は、別室（ハートルーム）や家庭でオンラインで授業を視聴できるようにしている。あまり実施している生徒はいないが今後も継続する。
- ・出席停止生徒は、療養に努めさせる。回復している場合、オンラインで視聴可能である。ただし、PCがない場合は、保護者に取りに来てもらう。

(6) 朝読書時間の設定

- ・落ち着いて生活を始められ、また読書習慣にもつながった。
- ・朝読書の時間で、アンケートや委員会活動、報告など、必要なときは他の活動も可とするなど柔軟に活用できた。（テスト2週間前は学習も可とし、3年生は、1月から学習も可とした）
- ・新聞を読む生徒があまりいないので、推奨する。

(7) 学習委員会

- ・全校60名での委員会活動であるため、活動場所がランチルームであり、話し合い活動が難しい。事前に学年代表と委員長とのミーティングを昼休みに設け、共通のテーマに基づいたキャンペーンを行った。学習委員の意見を反映しづらいが、事前に活動内容を提案できるため、委員会の時間が効率的に使えた。

(8) 外国籍・帰国子女教育>

- ・外国籍、帰国子女の編入が増え、日本語指導の回数が減ってしまった。葛の葉サポーターの協力が得られないか検討したい。
- ・日本語指導の時間割がわかりづらかったので、1か月ごとの予定表を作成する。また、放課後指導を検討する。

(9) 図書館指導>

- ・図書室の蔵書やレイアウトが工夫され、環境が整っている。授業での利用は教科により偏りがあるので、できるだけ利用を推奨していく。

【研究研修部】

(1) 研究・研修

- ・職員用の集計15よりABの回答結果においては昨年度より、肯定的な意見が多く、研修・研修が意欲的に進められていることが伺える。公開研究会があった昨年と比べるとAを付けた職員の割合はへっている。しかし、指導力の向上に向けて研究研修の充実に努めている職員の割合は昨年度より上昇しており、各部会を通して授業研の指導案の検討を十分に行い実践をしたことにより、職員の意識が高まったことが考えられる。
- ・教科部会や指導部会を通して、授業研等が効果的に行われている。
- ・教科指導に対しての意欲の高まりがある。
- ・若年層に向けた授業研究だけでなく、研究に向けた授業研究（総合的な学習の時間）が行えた。
- ・学校独自の若年層研修が行えた。
- ・研修研究部として役割分担をして、研修の準備に取り組めた。
- ・研究に対して意識を向けるための研修や取り組みをより実践していけるようにしたい。
- ・職員研修への参加をより促したい。
- ・指導力や研究は個人差や経験年数が大きいので、各部会での話し合いや学年内でのサポートを充実できるように促したい。

(2) 総合的な学習の時間

- ・昨年度の総合的な学習の時間の計画を踏まえ、行事と総合的な学習の時間を関連させ、授業の展開を各学年が行っている。
- ・研修をいれることによって、学校全体での総合的な学習の時間に向けた共通認識を持つことができた。
- ・総合的な学習の時間、学級の時間の分け隔てが無く「行事」の時間とされてしまっている。総合的な学習の時間の在り方を再度検討していき、行事の時間の取り方を精選していく必要がある。

- ・学年ごとの計画をより明確にして、来年度につなげていきたい。

【道徳指導部】

- ・先生方の協力もあり、ほぼ年間計画通り実施することができた。
- ・道徳ローテーションは賛同している声が多かった。しかし、副担任の先生をローテーションに入れると、時数的に負担になってしまう。副担任の先生に入ってもらうことで、他の人の授業を参観できるなど良い点もあるので、みんなで良い方法を模索していきたい。
- ・道徳講演会を行うことで、生徒への効果はあると思うが、実施前に内容の共有および精査が必要だと思うので、丁寧に行っていきたい。
- ・次年度、道徳の授業参観の機会を設けたい。
- ・性教育について、保健の授業とコラボして生命についての授業を行いたい。

【特活指導部】

- ・葛飾中学校の特色である「国際理解」に即した生徒会執行部の活動をしていきたい。
- ・中央委員会→専門委員会という流れだが、専門委員会→中央委員会という順番に替えていきたい。
- ・委員会報告は、全学年共通で、委員会の次の日の朝読書に行う。
- ・学級活動において、執行部主催の活動を実施したい。
- ・どの行事を体育館全学年、meet…にするか。実施方法は目的に応じて要検討。
- ・壮行会は、部活動に励んできた生徒たちが決意表明をする場ということを第一の目的として実施していきたい。
- ・生徒会選挙は、生徒会長は役職選挙、その他は役員選挙によって決めていきたい。
- ・三送会は、在校生が卒業式に出席できない分、華やかに盛大に行いたいと思う一方で、この規模の学校だと生徒・職員を動かすだけで、担当の負担は計り知れない。出し物などを工夫して、良いやり方を模索していく必要がある。

【生徒指導部】

- ・『誰ひとり取り残さない生徒指導』の継続
 - ◇長欠生徒へのアプローチの継続
 - ◇電話連絡、家庭訪問、放課後登校、オンライン授業の実施
 - ◇特別支援教室(ハートルーム)の利用
 - ◇1, 2年長欠生徒対象のSTEP UP MEETING(校長面接)実施
 - ◇長欠生徒の旅行行事への参加、当日の班別行動への柔軟な対応
 - ◇外部機関(総合教育センター、サポートルームひまわり、青少年センター、夢のふなっ子)との連携
- ・『葛中PRIDE』への意識
 - 一、個性を認め協力し合い、平等に接することができる人
 - 一、広い視野を持ち、周囲に貢献できる人
 - 一、葛の葉のように大きく育ち、まっすぐな信念を持つ人

- ・『2023 KATSUSHIKA GUIDELINE』の徹底
 - ◇新入生への1日の学校生活の見通し
 - ◇新制服の着こなしの徹底
- ・いじめ対策
 - ◇アンケート実施7月、12月、3月の3回
 - ◇アンケート結果から教育相談を実施→学年会で共通理解→いじめ対策委員会で対応策検討
 - ◇葛の葉AZ利用方法の周知と葛の葉AZからの相談実施
 - ◇SNSの使い方の講演実施
 - ◇生徒会中心の『いじめ撲滅運動』の計画・実践
- ・新入生対策
 - ◇入学前、本人・保護者と生徒指導主事の面談と校舎案内の実施
 - ◇管理職、養護教諭、長欠担当、特別支援コーディネーターと情報共有
- ・生徒指導における情報共有と『報告・連絡・相談』の徹底
 - ◇担任一人で抱えず、組織として対応
 - ◇担任→学年主任・学年→生徒指導主事→管理職→いじめ対策委員会開催

【GIGA SCHOOL研究部】

- ・学習への端末使用機会の増加。より効果的な方法の実践、発見。感染症などへの警戒緩和により、以前よりも自由に使用するか否かを選択できた。
- ・課題での使用頻度は増加したが、PCを使用できる時間が少なすぎる。来年度は、より活用可能な時間を増やす。
- ・端末を上手に活用できる生徒が増えたのと同じく、ネットリテラシーに関わるような問題も多かった。活用可能な時間の増加とともに、正しい使用法を生徒自身に常に問う体制を作り、ネットリテラシーの更なる育成を目指す。
- ・端末の便利さや気軽さにばかり目が行き、特に考えずにとりあえず端末を使う、というような場面があった。最適な解決方法を意識させ、端末もまた課題解決の道具の一つに過ぎない、ということを再度理解させ、課題に合わせて方法を選択できる思考力を養いたい。

【管理部】

- ・生徒は「きれいな学校をつくらうとしている」に対して90%以上が「よくあてはまる」「あてはまる」の回答を選択している。生徒としては、日頃の清掃活動に意欲的に取り組む意識がついていると考えていることがわかる。そうした清掃へのモチベーションの維持・向上を委員会の活動を通じて考えていきたい。
- ・一方で教職員内のアンケートの中には私語が目立つという回答も見られた。生徒と教職員の清掃の意識にずれがある可能性もあるのでそのずれを埋めていきたい。委員会の活動を通じて、無言清掃が当たり前であるという環境づくりを行っていきたい。
- ・大掃除についても、点検表や大掃除計画もできるだけわかりやすいものを、引き続き模索していきたい。

- ・環境整美委員が積極的にリーダーとして、清掃に対する自治意識が持てるように指導を工夫したい。
- ・学校評価アンケートの中で、清掃カットが多すぎるという意見が多く出た。確かに清掃カットの機会が多かったので、教務と連携を図りながら「最低でも、週に2～3回は清掃を行う」という学校運営にしていきたい。特に三者面談前などは保護者を迎えることも考えると清掃ありであることが望ましい。
- ・12月末には3年生が私立受験関係で清掃前に下校することが多い⇒12月末から1、2年生の清掃分担で動けるようにしていく。
- ・教室清掃に3班いることは、難しい可能性があるので見直しを検討する。見直しの際に雨が降ったときにも対応できる配置を考える必要がある。(見直しは考えているがこれ以上、清掃分担を増やすことが難しい現状がある)

【教務事務部】

- ・LGBTQ教室や多文化共生開発講座、道徳講演会を企画し、行うことにより、多様な視点と価値観の育成を図った。
- ・賞状披露の場面を作り、生徒の活躍を全校に紹介し、他の生徒への動機づけとすることができた。
- ・保護者へのお便りをメール配信やホームページ上で掲載し、伝達することができた。また、出欠席等の回答が必要な場合は、フォームを活用しネット上での回答によって紙媒体での回答を無くすことができた。今後も保護者をはじめとした地域への十分な情報発信を迅速に行っていきたい。
- ・学習指導部主導のもと1か月半～2か月に1度、学習予定表を作成、配布や掲示をし、見直しをもった学習ができるよう支援を行うことができた。また、ホームページ上でのアップを行うことにより、生徒も保護者もいつでも確認ができる環境を提供できた。

2. 学校運営協議会委員の方々より（学校関係者評価）

- 生徒や保護者への理解が向上した要因についても分析してみてもよいと思う。
- 活発な子が増えている印象がある。
- いじめ防止対策として取り組んだ後の状況やアンケートを行い教育相談を実施した後の状況についても、注意深く観察していけるとよい。
- 道徳教育の時間の確保が難しい中で、意識をもって取り組んでいることがうかがえる。
- 授業規律の確立や指導内容・方法に関して高評価なのは、先生方の意識の高さを感じる。
- テスト範囲を早めに出し、テスト後の返却と復習も早めに行う。
- 減点やネガティブな指導ではなく、常に応援してあげてほしい。
- 生徒指導においては、ルールを明確化し、教職員も含めてみんなで実践していくことが大切と思われる。
- 連絡体制については、大規模校における難しさはあると思うが、重要な課題なので今後に期待したい。

- 分掌は機能的なものとして高評価であるが、組織としての機能が不十分との意見。実情はどうなのか。
- 個人的には、生徒指導、教育相談、不登校対策、スクールカウンセラーの連携は重要と考えます。
- 組織として機能が改善されている。
- 組織が大きい故、情報共有がスムーズでないのは否めないと思う。
- 組織として連携がスムーズでないことがあるのは、やはり組織が大きい故。工夫が必要。
- トイレの改修、体育館のエアコン設置、グラウンドに降りる階段の改修等、衛生面や安全面について早急に対応していただければと思う。
- 職員室が1つでないこともそうだが、業務に支障をきたすようなことが他にもないか。
- 更衣室の配置はできそうか。

～多くの貴重なご意見ありがとうございました～

保護者の皆様、学校評議員の皆様には、葛飾中生徒の健やかな成長を心から願い、アンケートに真剣に答えて頂きました。ありがとうございます。その中には教職員の指導や取り組みに対し、励ましのお言葉を頂いたものもあり感謝申し上げます。

今後も、このアンケートから伝わる皆様の願いに応えるべく、教職員が一丸となって、真摯に児童の育成や教育に取り組み、保護者の皆様と手を携え、地域の皆様と肩を組みながら邁進していく所存です。今後ともよろしく願いいたします。